

日本情報科教育学会第5回全国大会を終えて

第5回全国大会実行委員長 香山 瑞恵（信州大学）

1. はじめに

日本情報科教育学会第5回全国大会を信州長野市の信州大学工学部で、平成24年6月16日、17日の2日間にわたり開催いたしました。

これまでの全国大会は、第1回を滋賀大学（全国大会実行委員会委員長：松原伸一先生（滋賀大学））、第2回を九州工業大学（同：西野和典先生（九州工業大学））、第3回を日本大学（同：夜久竹夫先生（日本大学））、そして第4回を畿央大学（同：西端律子先生（畿央大学））で開催されております。そのため、今回の開催は中部北陸地区では初めての全国大会となりました。

本大会は、長野県内の関係者の方々のみならず、長野県に接する7つの県（新潟県、群馬県、山梨県、埼玉県、岐阜県、静岡県、富山県）の関係者の方々にもあわせてご協力をいただき、11名の大会企画委員（委員長：西野和典先生）、および19名の大会実行委員、6名の学生アルバイトで運営いたしました。

大会期間中には、2日間で、延べ人数370名の参加をいただきました（1日目167名、2日目36名の受付）。さらに、基調講演1件、招待講演1件、パネルディスカッションでの話題提供7件、口頭発表57件、ポスタ・デモンストレーション発表15件（ポスタ7件・デモンストレーション8件）の登壇をいただきました。

また、文部科学省、総務省をはじめ10団体からの後援、関係学会等6団体からの協賛をいただきました。また、8社の企業様からの広告・展示をいただきました。立て看板とカンファレンスバックに関しては、ながのコンベンションビューロからの支援をいただきました。

さらに、大会実行委員の永田奈央美先生（静岡産業大学）のご協力をいただき、同大学の小林克司先生の指導のもと、情報学部生が大会論文集の表紙をデザインしていただきました。大会テーマ（後述）にある縦と横の連携をイメージした、オレンジと緑のデザインです（図1参照）。

ご協力をいただきました全てのみなさまに、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

2. 大会テーマ

平成11年3月に告示された高等学校学習指導要領に、情報科の内容が初めて盛り込まれました。あれから13年が経とうとしています。情報科教育の成果の継続、またさらなる発展を意識した大会



図1 論文集の表紙デザイン

としたいと考え、大会テーマとして、「情報科教育の継続と発展～「横」の連携と「縦」の接続～」を掲げました。

成果の継続およびさらなる発展のためには、情報科のみならず、それを取り巻く環境との連携も不可欠です。そこで、副題に「「横」の連携と「縦」の接続」という文言を含めました。

なお、ここでの「横」とは、情報科に対する他の教科というような教科間の連携はもちろん、情報科を実践する高校に対する地方公共団体、保護者、地域住民、企業、メディアなど、社会全体の連携をも指しています。また、「縦」は、小・中学校教育、および大学や生涯教育への関係を指しています。

3. 教育実践者の参加を促す試み

より多くの情報科教育実践者の参加・発表を促進させる目的で、これまでの全国大会に引き続き、後援をいただきました組織の内、高等学校の教員が多く所属している組織の関係者については、大会への参加費を本学会会員と同様の扱いとすることといたしました。今回は、長野県教育委員会、長野市教育委員会、埼玉県高等学校情報教育研究会、静岡県高等学校教科「情報」教育研究会、岐阜県高等学校教育研究会情報部会、山梨県高等学校教育研究会情報科部会、全国専門学科「情報科」高等学校長会、全国高等学校情報教育研究会の各関係者様が該当します。これにより、ほぼ全国の情報科の先生方が本学会員と同様の扱いで大会に参加できるようになりました。

さらに、新規の企画として、これまでの「ポスタ発表」を拡大し、「ポスタ・デモンストレーション発表」を設けました。これは、情報科のための教材・教具、授業支援ツール等に関する「デモンストレーション」も含めた発表枠です。教育実践者の教材開発や教具の工夫を実演しながら説明いただく場、大会参加者が実際に手に取りながら開発者と議論いただく場となることを狙いました。

「ポスタ・デモンストレーション発表」では、

各発表をアピールいただく公式な場として、1件3分程度のブリーフプレゼンテーションをお願いいたしました。さらに、各発表1ページのロングアブストラクトの提出もお願いをし、論文集に掲載させていただくことといたしました。

4. 大会の様子

1日目午前中には、まず4会場に分かれての口頭発表4セッション、続いてポスタ・デモンストレーション発表を行いました。

ポスタ・デモンストレーション発表では、全体のブリーフプレゼンテーションに続き、昨年度同様のコアタイムを設けたことで、ポスタ前での説明と議論、教材のデモンストレーションと議論が活発になされていました（図2参照）。

午後には、第5回総会に続き、岡本敏雄会長（電気通信大学）による基調講演「これからの情報科教育10年に期待するもの」が行われました。情報科教育を取り巻く社会・経済動向をふまえ、中学校段階からの独立した教科“情報”の設置、および高等学校段階での4単位の枠組みの必要性が強く指摘されました。

そして、文部科学省生涯学習政策局新井孝雄参事官による招待講演「教育の情報化の推進について」が行われました。国内施策および海外諸国の施策動向に関してご紹介をいただき、我が国としての情報教育の推進のビジョンをお示しいたきました（図3参照）。

これらの講演に続き、パネル討論I「情報教育カリキュラムの体系化」が行われました。情報科をとりまく“縦の接続”を意識した企画です。西野和典先生の司会のもと、文部科学省初等中等教育局永井克昇視学官、堀田龍也先生（玉川大学）、松原伸一先生、中條道雄先生（関西学院大学）からの話題提供をいただきました。

ここでは、小学校及び中学校における「情報科」の導入に向けて、どのような準備が進められているか、また今後どのような準備が必要になるかが議論されました。小・中学校の情報教育の内容と高校情報科のカリキュラムを、どのように接続さ



図2 ポスタ・デモンストレーション発表でのブリーフプレゼンテーション（上段）とコアタイム（下段）の様子



図3 新井孝雄参事官による招待講演

せて体系化するかの議論を通じて、初等中等教育の12年間を通じた情報教育カリキュラムの体系化に向けた道筋を検討する機会となりました。

夕刻からは長野駅近くのホテルに会場を変え、懇親会を開催しました。長野県産の日本酒とワインが各テーブルに振る舞われました。

また、口頭発表会場に挟まれる教室において、初日から企業展示を行いました。8社から9ブースご出展いただき、情報科の教科書や副読本、授業に活用できる教材・教具やコンテンツ、情報活用能力育成のためのテキスト、学習者の学びを蓄

積する学習支援システムなど、様々な書籍の詳細・製品のデモンストレーションがありました。

2日目は、午前中に7セッション、午後には4セッションの口頭発表が行われました。口頭発表の後には、開催校の信州大学から大石修治工学部長の挨拶があり、引き続き、パネル討論Ⅱ「大学入試と情報科～大学の最新動向と高校での対策～」が行われました（図4参照）。

ここでは情報科をとりまく“横の連携”を意識し、長野県内の高校の進路指導ご担当の先生4名にもご登壇をお願いいたしました。本学会での大



図4 パネル討論Ⅱ（左上：岡本会長，右上：4名の指定討論者，左下から天良先生・渡辺先生・萩谷先生）

写真提供：日経パソコン編集 中野淳氏

学入試と情報科の関係に関する議論に、必ずしも情報科を専門としない立場で参画をいただき、「外からの目」を与えていただきました。

岡本敏雄会長の司会のもと、まず、長野県内の4つの高校の進路指導担当の先生に各校の進路の状況をふまえて、教科「情報」の授業の現状や、教科「情報」が大学入試センター試験の出題対象になった場合の影響などを率直にお話いただきました。その上で、萩谷昌巳先生（東京大学大学院）、渡辺博芳先生（帝京大学）、天良和男先生（東京都立小石川中等教育学校）から、近年の大学入試に取り入れられている「情報科入試」「プレゼン型入試」「課題解決型入試」「思考力型入試」の実施実績からみてきたことと、大学としての将来展望、高校側での対策をご紹介いただきました。

フロアとの議論をふまえて、岡本会長から「日本人の基礎学力の一つとしての“情報学力”を意識し、学会として“情報のコアコンピテンシー”の整理とそのための教育方法の体系化が急務である」こと、その上で「情報科教育者以外の方からも納得が得られる形にして情報科を大学入試センター試験に入れていきたい」という提言がなされました。

5. おわりに

今回の全国大会は長野市という地方都市での開催でありましたが、過去の全国大会と比較して最大数である72件のご登壇をいただきました。情報科教育の活発化を反映した成果であると考えます。本大会での発表・議論が明日の情報科の糧となりますよう、願っております。そして、周囲を、産業を、そして社会を巻き込んで成長・進化していく情報科、そして情報科教育、情報科教育者たらんことを。

最後に、実行委員会の不手際で、大会期間中の記録写真・映像をきちんと残すことができませんでした。本報告においても写真でご様子をお伝えできなかった企画がございます。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

第6回全国大会は東海大学・東京高輪キャンパスで開催される予定です。続報は日本情報科教育学会Webサイト (<http://jaeis.org/>) をご覧いただければ幸いです。